

～『自分で考え、判断し、行動できる生徒の育成』をめざして～

2025/09/29

前南の英語スピーチ“四皇”が参戦！ **ドン!**

明石杯高校生スピーチコンテスト前橋支部予選

9月24日（水）、共愛学園高等学校にて明石杯高校生スピーチコンテスト前橋支部の予選があり、校内予選で選ばれた4名が参加しました。他校のライバル達に対してひるまず堂々のスピーチ、その結果3名入賞、うち1名は県大会へ出場します。予選に挑んだ4名に、参加してのふりかえりやコンテストに向けて工夫したことについて話を聞きました。（編集 教頭）

参加

私は他校の生徒さんに比べ、自分が話していることを相手に伝える姿勢が足りていないと感じました。自分が話していることを相手により伝わるようにするにはどうしたら良いのかこれから研究していきたいと思いました。（茂木優佳 1年）

しての感想

緊張して文を飛ばしてしまったり読むスピードが速かったりしてとても後悔しています。もっと人前で読む練習をしとけば良かったなと思っています。他校の生徒のスピーチを聞いてもっとジェスチャーをつけたり間のとり方を工夫すれば良かったなと思います。

（松本心遥 1年）



全体的に見ると、一緒に参加した一年生や先生のおかげで、思いの外緊張することなく堂々と話せたと思います。しかし、自分は一度つかえてしまい、直後の文を飛ばしてしまったので、もっと練習を増やせばよかったと感じました。また、県大会に進むという目標を達成することができなかったため、とても悔しいです。2年の自分には次のチャンスはないのですが、この経験を活かして原稿のない英会話でも堂々と話せるようになりたいです。（新井美結 2年）

当日は少し早口になってしまった部分があったので、内容をしっかり覚え、落ち着いて自分の気持ちを伝える、というように余裕をもって臨めるようにしたいです。また、感情をあまりのせる事ができなかったのが、改善していきたいです。発音を上手くしていきたいのはもちろん、相手にこの気持ち、考えを伝えるということを意識して県大会に挑戦したいです。（志村梨愛 1年）

Q コンテスト(前橋支部予選)に向かうまでの過程で、先生とのやり取りで指摘されたこととそれをどう改善していききましたか？どういうことを学びましたか？

松本「発音の仕方や抑揚の付け方を指摘され、ジェルピを活用して改善していききました。また、伝えたいという気持ちが強いのか弱いのかの重要性が学べました。」

志村「RとLの発音の区別。自分はこの二つのアルファベットの区別が曖昧だったので、単語のスペルを意識し、舌の使い方を工夫しながら直すようにしました。所々の発音が若干違っていたりしてもいたので、先生に聞いたり、インターネットで調べたりして、ネイティブな発音に近づけるよう努力しました。基礎的な事をしっかり身につけて、感情をのせたり、抑揚をつけるのが大事だと学びました。」



▲校内選考での様子。講評を聴く生徒達

新井「発音やイントネーション、制限時間をよく指摘されました。発音とイントネーションについては、ALTのヌエン先生に指導をしてもらい、自分で練習した上で英語の先生にも確認してもらいました。制限時間では、4分30秒以上でないと減点されるため、先生にアドバイスをもらって間の取り方を工夫し、何分でどれくらい読むかに気をつけて練習しました。」

茂木「本番の直前まで文章を覚えることが出来なかったのが具体的な発音等の指導を受けることはできませんでしたが、自分の中でどういう風に覚えていけば良いのか考える機会を得ることができました。」

★校長より★ 明石杯スピーチコンテスト前橋支部予選に出場した皆さんお疲れ様でした。今回のコメントを読んでもみると、皆さんが「伝えたい気持ち」や「相手に伝える姿勢」について考えるようになったことがうかがえます。3つの非認知能力の一つに「他者と繋がる力」がありますが、そこでは他者の感情や思いを想像的に理解することが必要となります。自分の話を聞いてくれている人に対して分かりやすく伝えたいという思いを持てるのが大切なのですね。（校長 原 拓史）

